

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

何事にも誠実に取り組み、創意を凝らし未来づくりのプロとして社会で活躍する人材を育てる。

1. 技術を身に付け、資格の習得によって社会を支える人材を育成する。
2. 「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」としての社会人基礎力を育成する。
3. 授業力の向上をはじめとする教員の資質向上と組織力の向上に努める。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒が主体的に学び、理解を深められるよう指導方法や教材を工夫し、「わかる授業」をめざして授業改善を進める

ア 相互授業見学や研究授業を通して、授業内容と指導方法を改善し、効果的な授業づくりをめざす。

イ 生徒アンケートを活用して、理解度や改善点を明確にし、授業改善に取り組む。

ウ 1人1台端末やICT機器を活用し、生徒の興味を引き出し、主体的な学びを推進する。

※学校教育自己診断（生徒・保護者）において「授業の内容がよくわかる」の肯定率を令和9年度に90%以上にする。

生徒（R4 86% R5 87% R6 83%）保護者（R4 84% R5 77% R6 73%）

※学校教育自己診断（生徒）において「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を令和9年度に90%以上にする。

生徒（R4 82% R5 82% R6 82%）

(2) 専門教育を深化させ、実践的な技術や知識を高める授業づくりを推進する。

ア 工場や施設見学を通じて、実践的な技術や知識を学び、教科内容との関連性を深める。

イ PBL学習の成果合同会を開催し、生徒の学びを発信、気付きを促進する。

※学校教育自己診断（生徒・保護者）において「工業に関する知識や技術の定着」の肯定率を令和9年度に90%以上とする。

生徒（R4 91% R5 91% R6 92%）保護者（R4 84% R5 77% R6 88%）

2 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

(1) 主体的な進路選択に向けた工業教育、進路指導の充実

ア 資格取得や検定合格を通じて、実践的な知識や達成感を得て自己成長を実感し、主体的に取り組む意識を醸成する。

イ 生徒が主体的に進路を選択できるよう、計画的な指導と実践的な経験の機会を充実させる。

※資格試験、各種検定受験者を令和9年度に200名以上を維持する。（R4 175名 R5 189名 R6 210名）

※学校紹介による就職希望者の内定率100%を令和9年度まで維持する。（R4 100% R5 100% R6 100%）

※学校教育自己診断（生徒・保護者）において「将来の進路、生き方を考える機会がある」の肯定率を令和9年度まで90%以上にする。

生徒（R4 91% R5 89% R6 87%）保護者（R4 92% R5 81% R6 90%）

(2) 社会人基礎力の育成と規範意識の醸成

ア 基本的な生活習慣や規範意識の向上をめざし、教職員一丸となった指導と家庭との連携を強化する。

※学校教育自己診断（生徒・保護者）において「間違っただ行動に対して厳しく指導してくれる」の肯定率を令和9年度に95%以上にする。

生徒（R4 93% R5 95% R6 90%）保護者（R4 84% R5 85% R6 91%）

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 安全安心な学校生活のための生徒支援

ア すべての人を尊重し、多様性を認め合う人権意識を醸成する。

イ いじめの早期発見と未然防止を図り、安全な学校生活を実現する。

ウ 特別教育支援チームを中心に個別の生徒支援体制の確立と中途退学の防止を推進する。

※学校教育自己診断（生徒・保護者員）において「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を令和9年度に90%以上とする。

生徒（R4 90% R5 86% R6 88%）保護者（R4 79% R5 79% R6 91%）

※学校教育自己診断（生徒・保護者・教職員）において「いじめ対応」の肯定率を令和9年度に95%以上とする。

生徒（R4 90% R5 87% R6 86%）保護者（R4 78% R5 91% R6 92%）教職員（R4 94% R5 100% R6 87%）

※学校教育自己診断（教職員）において「問題行動時の組織的対応」の肯定率を令和9年度に95%以上とする。教職員（R4 90% R5 88% R6 87%）

(2) 学習環境の整備と生徒の健康管理

ア 整理整頓と行内美化を徹底し、快適で学びやすい環境を整備する。

イ 安全で健全な学校生活を実現するため、危機対応力と予防教育の充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）において「校内美化」の肯定率を令和9年度に90%以上とする。生徒（R4 75% R5 78% R6 77%）

(3) 魅力を発信する学校づくり

ア 生徒会主体で魅力ある学校行事を計画し、部活動紹介や魅力発信を通じて学校を活性化する。

イ 学校説明会やホームページを活用して学校の魅力を広く発信する。

※学校教育自己診断（生徒）について「学校行事への積極性」の肯定率を令和9年度に90%以上とする。生徒（R4 90% R5 91% R6 89%）

※入学者選抜において募集定員を令和9年度までに上回り入学志願者数を確保し維持する。（一般選抜志願倍率⇒R4 0.57倍 R5 0.66倍 R6 0.75倍）

4 学校組織力の向上と校務の効率化

(1) ICT活用による業務効率化と情報共有の促進

(2) 業務の見直しと効率化の推進

※時間外勤務時間が月80時間以上の職員を令和9年度までになくし維持する。（R4 9名 R5 4名 R6 2名）

※時間外勤務時間の月時間数の年平均を令和9年度までに20時間以下とし維持する。（R4 25時間13分 R5 22時間59分 R6 22時間51分）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(生徒)</p> <p>「工業に関する知識・技術の習得」 91.8%→91.7% (高水準で維持)</p> <p>「体育祭・文化祭の工夫」 77.0%→86.0% (+9.0pt)</p> <p>「学校行事への積極性」 89.3%→90.2% (高水準)</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」 75.8%→69.3% (▲6.5pt)</p> <p>「泉尾工業高校に入学して良かった」 78.9%→81.9 (+3.0pt)</p> <p>「家庭で家族とよく話す」 87.5%→82.4% (▲5.1pt)</p> <p>「家庭学習の習慣」 42.7%→51.6% (改善傾向)</p> <p>工業に関する知識・技術の習得に対する肯定的評価が引き続き高く、授業内容の理解や質問のしやすさなど、学習面において安定した成果が見られる。また、体育祭や文化祭に関する評価が大きく向上しており、学校行事の工夫や改善が生徒の意欲や主体的な参加につながっていることがうかがえる。教員の指導についても、納得感が高まり、規範意識や友人関係が良好に保たれている点は、本校の教育活動の強みである。一方で、「学校へ行くのが楽しい」と感じる生徒の割合は低下しており、日常の学校生活における充実感や心理的な満足度の向上が課題として挙げられる。家庭学習の習慣は改善傾向にあるものの、家庭での会話やICT活用の効果を実感する割合には減少が見られる。今後は、専門教育の充実を基盤としながら、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境づくりを一層推進していく必要がある。</p> <p>【保護者】</p> <p>「授業がわかりやすく楽しい」 73.2%→82.3% (+9.1pt)</p> <p>「工業の知識・技術が身についた」 87.9%→90.5% (+2.6pt)</p> <p>「生徒指導方針への共感」 77.9%→81.2% (+3.3pt)</p> <p>「保護者の相談への適切な対応」 91.6%→92.5% (高水準で上昇)</p> <p>「いじめへの対応」 92.0%→88.7% (▲3.3pt)</p> <p>「厳しい指導」 90.8%→87.9% (▲2.9pt)</p> <p>「家庭学習の習慣」 46.8%→55.1% (+8.3pt)</p> <p>「ホームページをよく見る」 47.3%→55.7% (+8.4pt)</p> <p>「家庭でよく話をする」 97.3%→89.7% (▲7.6pt)</p> <p>工業に関する知識・技術の習得や授業のわかりやすさに対する評価が大きく向上しており、専門教育の成果が家庭からも実感されていることがうかがえる。また、生徒指導の方針や保護者からの相談対応については高い評価を維持しており、学校への一定の信頼が確保されている。一方で、子どもが学校へ行くことを楽しみにしている割合や、友人関係に関する肯定的評価は低下しており、生徒の学校生活の充実に課題が見られる。家庭学習の習慣や学校ホームページの閲覧は改善傾向にあるが、家庭での会話の減少は懸念される点である。今後は、専門性の高い教育をさらに充実させるとともに、日常の学校生活の様子や取組を丁寧に発信し、家庭と連携しながら生徒の成長を支えていくことが重要である。</p> <p>【教職員】</p> <p>「カウンセリングマインドを取り入れた指導」 77.4%→75.8% (▲1.6pt)</p> <p>「教育相談体制の充実」 86.2%→82.4% (▲3.8pt)</p> <p>「いじめ対応体制」 86.7%→90.6% (+3.9pt)</p> <p>「問題行動への組織的対応」 86.6%→88.3% (+1.7pt)</p> <p>「教職員の意見が学校運営に反映」 79.3%→87.9% (+8.6pt)</p> <p>「教育活動について日常的に話し合っている」 90.3%→85.3% (▲5.0pt)</p> <p>「評価を次年度計画に生かしている」 86.6%→85.3% (▲1.3pt)</p> <p>いじめや問題行動への組織的対応、家庭との連携、キャリア教育の充実など、学校としての対応力が向上していることが確認できる。また、学校運営に教職員の意見が反映されているとの評価が高まり、参画意識の向上も見られる。一方で、教育活動について日常的に話し合う機会や、人権課題・生徒理解に関する協議、カウンセリングマインドを生かした指導については、肯定的評価がやや低下している。さらに、分掌や学科・教科間の連携、ホームページを活用した情報発信についても改善の余地がある。今後は、組織的対応の強化を継続しつつ、教職員同士が教育観や課題を共有する対話の場を意識的に確保し、学校全体の一体感と教育の質のさらなる向上を図ることが重要である。</p> <p>【学習指導】</p> <p>生徒・保護者双方のアンケートから、本校の学習指導、とりわけ工業に関する専門教育は高く評価されている。生徒は知識・技術の習得や質問しやすい授業環境を肯定的に捉えており、保護者からも「授業がわかりやすく楽しい」「専門性が身についている」との評価が大きく向上している。また、教職員においても教材の精選やキャリア教育の系統的实施に対する意識は高く、家庭学習の習慣が改善している点からも、学習指導の一定の成果がうかがえる。一方で、ICT活用の効果や授業改善の実感には差が見られ、学びの質をさらに高める工夫が求められている。</p> <p>○今後の課題</p> <p>今後は、工業教育の強みを維持・発展させつつ、ICTを活用した授業の目的や効果を生徒が実感できる指導の工夫が必要である。また、授業理解が十分でない生徒への支援や、家庭学習の定着を継続的に促す取組みも重要である。教職員間で授業実践や成果を共有し、学習指導の質を学校全体で高めていく体制づくりが求められる。</p> <p>【生活指導】</p> <p>生徒・保護者ともに規範意識や友人関係、教員の指導姿勢に対して概ね高い評価を示している。特に、学校のルール遵守や問題行動・いじめへの組織的対応については、教職員・保護者からの信頼が高い。一方で、生徒・保護者の双方において「学校へ行くのが楽しい」と感じる割合が低下しており、日常の学校生活における満足感や心理的な充実度に課題が見られる。また、相談体制についても一定の評価はあるものの、気軽に相談できる環境が十分に行き届いていない可能性が示唆される。</p>	<p>第1回 [6月19日]</p> <p>○学校の現状について</p> <p>○令和7年年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>○令和7年度使用教科用図書の採択について</p> <p>○主なご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度志願者のM科、E科が増加した理由は、 → 工業系他校の募集停止が一因の可能性がある。 大正区への就職はどのぐらいの割合か。 → 統計は取ってはいないが、昨年度3Mでは18名中4名大正区の企業に就職していた。 四年制大学への進学希望者は増えているのか。 → 特に変わってない。 <p>第2回 [11月7日]</p> <p>○学校の現状について</p> <p>○令和7年度「学校経営計画及び学校評価」進捗状況</p> <p>○主なご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和10年度より新工業系高校の募集が始まるが、泉尾工業高校はいつまで存続するのか。 → 令和12年3月まで(令和9年度入学生が卒業するまで) 昨年度1年生の遅刻数が他学年と比較して多かったが、今年度2年生の遅刻数が多い、学年が上がっても改善されていないように思うが、どのような指導をされているのか → 各クラス担任・生活指導課より当該生徒について生活改善の指導をおこなっている。 <p>第3回 [2月12日]</p> <p>○学校の現状について</p> <p>○令和7年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>○令和8年度学校経営計画について</p> <p>○主なご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の回答に関して記入欄はあるのか。 → 択一式のアンケートで理由等の記述欄はない。他の結果も踏まえて満足度を向上させていきたい。 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会」について → それぞれの授業で取り組んでいたことを結集させることが大切であり、PBL等も有効である。 SNSをはじめメディアリテラシの教育活動はあるのか。 → キャリアメーカーや警察に協力依頼。学校全体での講習会を開催している 遅刻者数1200件の数値設定根拠はあるのか。 → 前年からの引継ぎである。遅刻が多いと学習機会が減り、学力の低下をはじめ様々なデメリットが考えられる

<p>○今後の課題 今後は、規律ある学校生活を基盤としながら、生徒が安心して過ごせる居場所づくりや人間関係づくりを一層重視する必要がある。カウンセリングマインド[®]を生かした指導や相談体制の周知・活性化を図り、生徒一人ひとりの心情に寄り添う支援を充実させることが求められる。学校生活の楽しさや達成感を高める取組の工夫も重要である。</p> <p>【学校運営】 学校運営に関して、保護者・教職員から一定の信頼が寄せられており、特に保護者対応や家庭との連携、学校運営への教職員参画意識の向上が評価されている。また、学校行事の改善により、生徒の満足度が大きく向上している点は成果として挙げられる。一方で、教職員間の日常的な協議や人権課題に関する話し合い、分掌・学科間の連携については十分とは言えず、情報発信の在り方についても課題が残る。学校全体としての一体感のさらなる醸成が求められている。</p> <p>○今後の課題 今後は、学校運営方針や教育活動について教職員間で共有・対話する機会を意識的に確保し、組織としての連携を強化することが重要である。また、ホームページ等を活用した情報発信を工夫し、学校の取組や成果を分かりやすく保護者・地域に伝えていく必要がある。開かれた学校づくりを通して、信頼と協働をさらに深めていきたい。</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>(1) 生徒が主体的に学び、理解を深められるよう指導方法や教材を工夫し、「わかる授業」を目指して授業改善を進める</p> <p>ア 相互授業見学や研究授業を通して、授業内容と指導方法を改善し、効果的な授業づくりをめざす。</p> <p>イ 生徒アンケートを活用して、理解度や改善点を明確にし、授業改善に取り組む。</p> <p>ウ 1人1台端末やICT機器を活用し、生徒の興味を引き出し、主体的な学びを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の相互授業見学や研究授業を実施し、見学カードを使い互いに評価し合うことで授業内容や指導方法の改善を図り、より効果的で生徒の理解を深める授業づくりをめざす。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業アンケートを活用し、授業振り返りシートを作成し、授業の振り返りを行う。学習内容の理解度や授業方法の改善点を明確にし、効果的な授業改善に反映する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における1人1台端末の活用を全教科で推進するとともに、電子黒板やプロジェクタなどのICT機器を活用し、生徒の授業への興味・関心を引き出し、主体的な学びを促進する。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学1人3回以上 [新規] ・研究授業各教科1回以上 [新規] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの提出年2回以上。 [R6 2回] <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「授業のわかりやすさ」の肯定率を80%以上とする。 [R6 生徒83%、保護者73%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率85%以上とする。 [R6 生徒82%] 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月・10月に相互授業見学週間を実施し、教員一人平均7回見学を行った。見学カードのデジタル化を進め、さらなる授業力向上を図りたい。(◎) ・研究授業を7教科で実施したが、全教科での実施には至らなかった。次年度は計画的に調整し、全教科実施をめざす。(△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月・12月に授業アンケートを実施し、振り返りシートを年2回提出した。理解度や改善点を把握し、授業の振り返りに活用できた。今後も継続的に取り組みたい。(○) ・「授業のわかりやすさ」の肯定率は、生徒83%、保護者82%となり、評価指標の80%以上を達成した。今後も授業改善を継続したい。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1人1台端末の効果的活用」の肯定率は生徒80%にとどまった。次年度は活用事例の共有や校内研修を通じ、主体的な学びの促進を図りたい。(△)
	<p>(2) 専門教育を深化させ、実践的な技術や知識を高める授業づくりを推進する。</p> <p>ア 工場や施設見学を通じて、実践的な技術や知識を学び、教科内容との関連性を深める。</p> <p>イ PBL学習の成果合同会を開催し、生徒の学びを発信、気付きを促進する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学や施設見学を通じて、実際の現場で使用されている技術や知識を学ぶ。理論や専門的な知識と実践的な技術との関連性を深め、生徒の理解を深める機会を設ける。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PBL学習での成果を全校合同発表会で共有し、生徒が学びを発信する機会を推進し、他者の学びから新たな気付きを得る場を設ける。 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学、施設見学を年間30回以上実施する。 [R6 工場・施設見学25回] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「工業に関する知識や技術が身についた」の肯定率85%以上とする。 [R6 生徒82%、保護者88%] 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場・施設見学を年間43回実施し、評価指標である30回以上を大きく上回った。実践的な技術と教科内容を結び付ける学習機会が充実した。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「工業に関する知識や技術が身についた」の肯定率は、生徒92%、保護者91%となり、評価指標を大きく上回った。PBL学習の成果発信が学びの深化につながった。(◎)

<p>2 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進</p>	<p>(1)主体的な進路選択に向けた工業教育、進路指導の充実</p> <p>ア 資格取得や検定合格を通じて、実践的知識や達成感を得て自己成長を実感し、主体的に取り組む意識を醸成する。</p> <p>イ 生徒が主体的に進路を選択できるよう、計画的な指導と実践的な経験の機会を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得や検定合格は、学習過程で実践的な専門知識や技術が身につくことが期待できる。また、達成感や自己成長を実感できる重要な手段として位置づけられる。これらを通じて生徒が目標を持ち、自信をもって積極的に取り組む意識を醸成する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導計画に基づき、生徒が主体的に進路選択を行えるようガイダンス機能を充実させる。 地域や福祉、大学、専門学校、企業との連携を強化し、インターンシップや企業連携や高大・高専連携イベントへの積極的な参加を促進する。これにより、実際の職場経験を通じて進路への理解を深め、自己の将来設計や職業適性について考える機会を設ける。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスター取得者数を令和6年度より増加させる。[R6 7名] 資格試験・検定受験者数を200名以上に維持する。[R6 受験者数210名] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスを開催する。昨年通りの回数を実施する。[R6 1年3回, 2年4回, 3年4回] 地域連携10回以上、企業連携20回以上、高大・高専連携25回以上に参加する。[R6 地域連携8回、企業連携28回、高大・高専連携13回] 学校紹介の就職内定率100%を維持する[R6 100%] 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上とする。[R6 生徒87%、保護者90%] 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスター取得者はシルバー1名、ブロンズ2名の計3名にとどまり、前年度を下回った。今後は早期からの目標設定や資格取得支援を強化し、主体的な挑戦を促したい。(△) 資格試験・検定の受験者数は延べ400名となり目標値を上回った。資格取得を目標に、生徒が主体的に学習へ取り組む姿勢の醸成につながった。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスを1年3回、2年4回、3年4回、教職員向けに1回実施した。計画的な実施により、生徒が進路を考える機会の充実につながった。(○) 地域・企業・大学等との連携事業に計画的に参加し、大阪・関西万博関連イベントやSTEAM教育プログラム等を含め、地域連携10回、企業・高専連携19回、高大連携3回を実施した。多様な実践的経験を通じて、生徒が進路を具体的に捉え、主体的に将来を考える機会の充実につながった。(○) 学校紹介の就職内定率は100%であった。(○) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率生徒84%、保護者89%にとどまった。体験と振り返りを結び付けた進路指導を工夫し、次年度は主体的に考える機会の充実を図りたい。(△)
	<p>(2)社会人基礎力の育成と規範意識の醸成</p> <p>ア 基本的生活習慣や規範意識の向上をめざし、教職員一丸となった指導と家庭との連携を強化する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立をめざし、遅刻指導を重点課題として教職員全体で共有する。登校時には正門でのあいさつ指導、放課後には遅刻者への指導を徹底することで、生徒の意識向上と改善を図る。 LHR や集会での指導を教職員全体で組織的に行い、公共のルールやマナーを意識させ、服装や言動を指導する。家庭と連携し、生徒の生活態度の改善を図り、規範意識を醸成する。 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数を1200名以下にする。[R6 1340名] 学校教育自己診断「学校のルールを守って学校生活を送っている」の肯定率90%以上を維持する。[R6 生徒94%] 学校教育自己診断「間違っただ行動に対して厳しく指導してくれる」の肯定率90%以上を維持する[R6 生徒90%、保護者91%] 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は1425名となり、目標値には届かなかった。あいさつ指導や家庭連携を継続しつつ、早期介入を強化し生活習慣の改善を図りたい。(△) 「学校のルールを守って学校生活を送っている」の肯定率R7生徒95%となり、規範意識の定着が図られた。(◎) 「間違っただ行動に対して厳しく指導してくれる」の肯定率は生徒90%、保護者88%にとどまった。指導の趣旨や一貫性を丁寧に共有し、家庭連携の強化を図りたい。(○)

<p>3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)安全安心な学校生活のための生徒支援 ア すべての人を尊重し、多様性を認め合う人権意識を醸成する。</p> <p>イ いじめの早期発見と未然防止を図り、安全な学校生活を実現する。</p> <p>ウ 特別教育支援チームを中心に個別の生徒支援体制の確立と中途退学の防止を推進する。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権 HR や全校集会での人権講話を行い、生徒が人権について正しい理解を深められるよう指導を推進する。また、日常の教育活動の中でも、あらゆる場面を人権教育の機会と捉え、継続的に生徒の人権意識向上を図る。 ・多様な背景を持つ生徒への配慮や支援を行い、安心して学べる環境を整える ・教職員を対象に人権意識向上を目的とした研修を実施し、教育活動での人権感覚の実践を促す。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR や全校集会でいじめに関する講話を行い、生徒がいじめについて正しい理解を深められるよう指導を推進する。 ・教職員のいじめ対応力を向上させるため、定期的にセルフチェックを実施し、早期発見・対応の重要性を全職員で共有する。 ・いじめが疑われる事象を発見した際には、迅速にいじめ対策委員会を開き、被害生徒の心情に寄り添いながら保護者や関係機関と連携し、深刻化を防ぐ。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による生徒観察情報を「気づきシート」で共有し、SC やSSW との連携。特別教育支援チームを中心にアセスメント実施し、支援方法を検討。個別支援へとつなげる体制を構築する。 ・学期ごとに集約した「気づきシート」を基にスクリーニング会議を開催し、担任と教科担当で生徒の状況を情報共有し、適切な指導につなげる。 ・生徒の問題事象の早期発見と未然防止を図るため、SC やSSW を活用した校内研修を充実させ、教職員のカウンセリングスキル向上に努めるとともに、相談しやすい体制を整備し、生徒が安心して学べる環境を構築する。 ・支援対象の生徒に対して 生徒や保護者と連携して合意形成を図り、必要な合理的配慮を提供する。 ・長期入院生徒や不登校生徒に対して、教材や課題の提供、遠隔授業などの個別学習支援を行い、学習保障と教育機会の確保を図るシステムの構築を進める。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会において人権に関する講話を年2回以上実施する。[R6 2回] ・人権 HR を各学年で年1回以上実施する。[R6 1年1回、2年2回、3年1回] ・教職員を対象とした人権研修を年2回以上実施する。[R6 1回] ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%以上とする。[R6 生徒88%、保護者91%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR でのいじめに関する講話を年1回以上実施する。[R6 1年1回] ・全校集会においていじめに関する講話を年1回以上実施する。[R6 1回] ・教職員を対象にいじめに関するセルフチェックを年2回以上実施する。[新規] ・学校教育自己診断「いじめに対する学校の対応」の肯定率 90%以上とする。[R6 生徒86%、保護者92%] ・学校教育自己診断「いじめ(疑い含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率 90%以上とする。[R6 教職員87%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる」の肯定率80%以上とする。[R6 生徒75%] ・関連会議を毎月開催する。 ・SC による研修会を年1回以上開催する。[R6 1回] ・SSW による研修会を年1回以上開催する。[R6 1回] ・Web 会議システムを利用したリモート授業見学会を全教員年1回以上開催する。[新規] 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で人権講話を年2回実施し、生徒の人権理解を深める機会を確保できた。今後も日常の教育活動と関連付け、継続的な意識向上を図りたい。(○) ・人権講話や人権 HR を学年の実態に応じて計画的に実施し、1年生3回、2年生2回、3年生2回と評価指標を上回った。ネットリテラシーや多文化共生、セクシャリティ等を通じて、生徒が多様性や人権課題を自分事として考える機会を充実させることができた。(◎) ・教職員およびPTAを対象とした人権研修を2回実施した。(○) ・人権 HR や講話を通じて命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を設けたが、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は生徒89%、保護者88%と目標に届かなかった。次年度は日常指導との関連を強化したい。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR 等でいじめに関する講話を年2回実施し、正しい理解の促進と未然防止に取り組んだ。(○) ・全校集会で校長によるいじめに関する講話を1回実施した。(○) ・教職員を対象にいじめに関するセルフチェックを年2回実施し、早期発見・対応の意識を共有した。(○) ・「いじめに対する学校の対応」の肯定率は生徒85%、保護者89%にとどまった。取組の可視化や情報発信を工夫し、信頼向上を図りたい。(△) ・「いじめ(疑い含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率は91%となり、目標値を達成した。組織的な対応意識の向上につながった。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる」の肯定率は75%にとどまり、目標値に達しなかった。今後は相談体制の周知と教職員の連携強化を図り、安心して相談できる環境づくりを進めたい。(△) ・SC や支援コーディネーターを中心に毎月会議を実施し、ケース会議やスクリーニング会議を通して情報共有と支援検討を継続的に行い、組織的な生徒支援体制の充実を図ることができた。(◎) ・SC による研修会を各1回実施し、支援学校教員からの助言も得て、教職員の支援理解と対応力の向上を図ることができた。(○) ・SSW による研修会は実施できず、評価指標に届かなかった。次年度は計画的に研修機会を確保し、教職員の支援対応力向上を図りたい。(△) ・リモート授業見学会は全教職員の85%にとどまり、評価指標を達成できなかった。次年度は日程調整や周
-----------------------------	---	---	--	---

府立泉尾工業高等学校

	<p>(2) 学習環境の整備と生徒の健康管理</p> <p>ア 整理整頓と行内美化を徹底し、快適で学びやすい環境を整備する。</p> <p>イ 安全で健全な学校生活を実現するため、危機対応力と予防教育の充実を図る。</p>	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室や実習教室内の整理整頓と清掃を徹底し、生徒が集中して学べる快適な学習環境を整備する。また、清潔で整った環境作りを通じて、生徒の自主性や責任感を育むことをめざす。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象に食物アレルギー対応の校内研修を実施し、緊急時の迅速な対応方法を共有する。また、エピペン使用訓練など具体的な対策を取り入れる。 ・「薬物乱用防止教育のために一指導参考事例集」を活用し、LHR や集会を通じて生徒に薬物の危険性について正しい知識を普及させ、薬物乱用防止意識を高める。 ・学校保健委員会を年1回以上開催し、学校の現状と健康課題を共有する。 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「校内美化の状況」の肯定率80%以上とする。[R6 生徒77%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーに関する教員研修を年1回実施する。[R6 1回] ・薬物乱用防止教育の講演を年1回以上開催する。[R6 0回] ・学校保健委員会を年1回以上開催する。[R6 1回] <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「体育祭や文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率を80%以上とする。[R6 生徒77%、教職員77%] ・学校教育自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定率を90%以上とする。[R6 生徒89%] ・学校教育自己診断「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定率60%以上とする。[R6 生徒52%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度入学者選抜での全体の志願倍率1.00倍をめざす。[R7 選抜0.74倍] ・学校教育自己診断「情報提供手段として、学校ホームページが活用されている」の肯定率85%以上とする。[R6 教職員83%] 	<p>知方法を工夫し、全員参加をめざしたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率は教職員88%にとどまった。次年度は役割分担の明確化や研修を通じ、対応力の向上を図りたい。(○) ・「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率は教職員76%にとどまった。校内研修の充実を図り、全教職員の意識向上に取り組みたい。(△) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校内美化の状況」の肯定率は生徒79%となった。さらなる環境改善に努めたい。(○) ・食物アレルギーに関する教員研修を1回実施し、エピペンの使用講習を通して緊急時対応への理解を深めることができた。(○) ・薬物乱用防止講習を1回実施した。(○) ・学校保健委員会を1回開催し、学校の健康課題や現状を共有することで、危機対応力と予防意識の向上を図ることができた。(○) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体育祭や文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率は86%に向上したが、教職員の評価は横ばいであり、さらなる改善が課題である。(○) ・生徒会主体で行事運営を工夫し、「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定率は90%となり、目標を達成した。(○) ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定率は52%にとどまった。次年度は参加意欲を高める工夫を進めたい。(△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度入学者選抜での志願倍率は0.66倍であった。(△) ・学校説明会への参加やホームページ充実に取り組んだが、「情報提供手段として、学校ホームページが活用されている」の肯定率は77%にとどまった。次年度は更新内容や発信方法の改善を図りたい。(△)
--	---	--	--	--

府立泉尾工業高等学校

<p>4</p> <p>学校組織力の向上と校務の効率化</p>	<p>(1) ICT 活用による業務効率化と情報共有の促進</p> <p>(2) 業務の見直しと効率化の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議資料のペーパーレス化を推進し、紙媒体使用に伴う業務時間の短縮を図る。また、職員間の連絡や周知事項は学校ポータルサイトを活用し、効率的な情報共有を促進する。 保護者への連絡や案内文書をホームページやグループウェアで配付するため、体育祭や文化祭、授業参観などの学校行事に合わせて、保護者対象の説明会を随時実施する。これにより、グループウェアのアカウント登録を促進し、情報共有の効率化を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「府立学校における働き方改革に係る取組み(平成30年3月)」に沿って、業務内容の見直し、業務分担の均衡化などを行い、業務の効率化を図る。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種会議資料のペーパーレス化を進め、効率的な運営を図る。対象は運営委員会、職員会議、成績会議(年3回)、スクリーニング会議の4つの会議とする。[R6 運営委員会と職員会議がペーパーレス化済み] グループウェアの保護者のアカウント登録率を60%以上とする。[R6 43.6%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間が月80時間以上の職員を0名とする。[R6 2名] 時間外勤務時間の月時間数の年平均を20時間以下とする。[R6 22時間51分] 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議、運営委員会、成績会議、スクリーニング会議においてペーパーレス化を完了し、会議運営の効率化と情報共有の促進を図ることができた。(○) 体育祭や授業参観等の機会に説明会を実施した結果、保護者のグループウェア登録率は60%となり、情報共有の効率化を進めることができた。(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務内容の見直しと分担の均衡化を進めた結果、時間外勤務が月80時間以上の職員は0名となり、働き方改革の取組が成果を上げた。(◎) 業務内容の見直しと分担の均衡化を進めた結果、時間外勤務時間の年平均は17時間39分となり、目標値を大きく下回る成果を上げた。(◎)
---------------------------------	--	---	--	--